

視察報告書

委員会名	総務文教常任委員会
視察日時	平成27年11月10日(火) 13時30分～15時30分
視察先	上越教育大学附属中学校
視察項目	ICTを活用した教育について
視察参加議員	堀田勉、谷口一成、小島忠義、三嶋栄幸、柳明夫、岡村一伸、高橋徹郎
視察随行職員	岩田英昭

ICTとは

ICTとは情報通信技術の略称であるが、IT(情報技術)とほぼ同義語であり、情報処理および情報通信、つまり、コンピューターやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称である。

上越教育大学附属中学校について

1. 平成27年度の生徒数は364名。
2. 平成23年度から26年度の4年間、総務省「フューチャースクール推進事業」文部科学省「学びのイノベーション事業」の受託を受けて、授業にICTを取り入れ実証研究に取り組んでいる。
3. 平成27年度からは上越教育大学の予算によってICT環境を維持し、タブレットPC、インタラクティブホワイトボード(電子黒板)の機器活用を行っている。

視察概要

学校よりICTの取組みについて説明を受け、ICT施設を見学。その後質疑応答を行った。

1. ICT教育の評価について

ICTを活用した授業については、児童生徒および教員とも8割以上が肯定的な評価をしている。

具体的には以下のとおり

- ①インターネットの活用では「収集する情報量を増やすことができる」「情報収集を効率よく出来る」とのこと。
- ②教員が手本となる動画を作成(例:裁縫など)することにより、生徒は繰り返し自分のペースで何度も確認しながら作業を行うことができる。
- ③デジタルなので、収集した情報の入替えや修正が容易である。
- ④映像を活用するため視覚的な効果が高い。プレゼンテーションでは発表者の考えがよく理解できる。可視化することで思考が深まる。
- ⑤アンケート調査結果では「楽しく学習できる」、「積極的に授業に参加することができる」、「集中して授業に取り組むことができる」、「学習した内容をもっと調べてみたいと思いますか」などの問いに、9割以上の生徒が「そう思う」と評価している。

2. ICT教育の成果について

- ①情報を慎重に扱おうとする態度、また、必要な情報や正しい情報を取捨選択する力をも身につけることができたとのこと。
- ②ICTを活用するスキルが身に付き、簡素にまとめ分かりやすく発表する力がついたとのこと。

3. ICT教育の課題

- ①PCのバッテリーが3時間しか持たないとのこと。(夜間に充電をおこなっている)
- ②数年毎にPCに入替えが必要であり、膨大なコストを要する。
- ③ICTはあくまで道具なので、実体験を伴う活動や話し合いを充実させる手立てやバランスの工夫が必要。
- ④機械的なトラブルなどに対応する支援員のサポートがなければ、実際に授業を運用していくことができない。
- ⑤保護者は、コンピューターを使った授業に肯定的な人ばかりではない。
- ⑥教科書のデジタル化について質問したが、多くの生徒が「書き込みができないので、従来の教科書も必要」と思っているとのこと。

意見（本市にとって活用すべき事項・課題など）

- ①これからの時代を考えると、早い時期にICTに触れることはとても大切と考える。
- ②授業で活用することにより、「インターネットの情報を鵜呑みにしない」、「情報を取捨選択する力が身につく」ことなどは大切な効果と考える。
- ③ICT教育を導入するには莫大なコストが必要であり、また、それを維持運営するにも人的・金銭的なコストが必要である。
- ④成果について質問したが「少人数学級と同じで、目に見えた成果が分かりづらい」との答弁が印象的であった。
- ⑤まずは、今あるコンピューター教室や電子黒板の今まで以上に利活用を進めるべきと考える。